

行政視察報告書

行政視察の結果について、下記のとおり報告します。

令和8年8月3日

光市議会議長 森戸 芳史 様

議員 小林 隆司

記

- | | | |
|---------|---------------|-------------|
| 1 調査年月日 | ①令和8年7月14日（火） | 13：30～15：00 |
| | ②令和8年7月15日（水） | 10：00～12：00 |
| 2 調査市等 | ①静岡県吉田町 | |
| | ②神奈川県海老名市 | |
| 3 調査結果 | 別紙のとおり | |

調査結果①

日 時	令和 8 年 7 月 14 日（火）、13：30～15：00	
調 査 市 等	静岡県吉田町	
調 査 事 項	リーディング DX スクール事業について	
説 明 者	教育委員会学校教育課 平井 奉子氏 等	

吉田町の概要

吉田町は、県中部の志太榛原地域に属し、大井川河口西側で駿河湾に面する面積約 20.7 平方キロメートルのコンパクトな自治体である。静岡市から約 25 キロ、浜松市から約 50 キロに位置し、人口は概ね 3 万人規模で推移している。古くから大井川の伏流水を生かした養鰻業や吉田漁港でのしらす漁、レタス栽培などの農漁業が盛んで「うなぎの町」として知られる一方、東名高速道路吉田インターチェンジと国道 150 号を軸とした交通利便性を背景に企業立地が進み、現在は農漁業と製造業が共存する都市近郊型の産業構造へと変化している。さらに、子育て支援や教育、防災などにも力を入れ、「水と緑の町」を掲げて暮らしやすい環境づくりを進めている。

リーディング DX 事業

文部科学省のリーディング DX スクール事業は、「令和の日本型学校教育」の実現に向け、一人一台端末とクラウド環境を活用した授業改善と校務 DX を先導的に進める取組である。全国の小中高等学校等から指定校を選定し、GIGA 端末の標準ソフトとクラウドを日常的に活用することにより、情報活用能力の育成と、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる授業モデルの創出を目指している。併せて学校経営全体の DX を進め、実践事例の全国展開を図る。



吉田町のリーディング DX 事業

吉田町は、文部科学省のリーディング DX スクール事業の指定を受けた自治体で、町内の 3 小学校と 1 中学校すべてが指定校となっている。GIGA スクール構想で整備された一人一台端末とクラウド環境を「普段使い」することを前提に、授業改善と校務 DX を町ぐるみで一体的に進めている。

事業のねらいと基本方針

- 児童生徒一人一人に応じた個別最適な学びと、話し合いや共同編集などによる協働的な学びを同時に充実させ、主体的で対話的な深い学びを実現すること
- 授業や評価、児童生徒の振り返りでデジタルデータを活用し、情報活用能力をカリキュラム全体で育成すること
- 校務のデジタル化と教員研修を通じて業務を効率化し、子どもと向き合う時間の確保と働き方改革につなげること

授業・学びの具体的取組

端末とクラウドを前提とした授業改善

- すべての教科等で端末とクラウドを日常的に活用し、資料配布、課題提出、振り返りをオンラインで行うことで、学習履歴を蓄積しやすくしている
- クラウド上で児童生徒同士の考えを共有することで、友達の考えを必要なタイミングで参照したり、自分で協働の相手を選んだりする学び方を促している

小学校での実践例

- 従来の形式にとらわれない「学習の最適化」に焦点を当てた指導案を作成し、一人一人の状況に応じた個別の支援を DX で後押ししている
- 教科ごとのウェブサイトを中心に反転学習や発展学習を行い、家庭学習と授業を連動させた探究的な学びを進めている

中学校での実践例

- 単元や年間を通した学習設計の中に端末活用を組み込み、協働学習と振り返りを一体で進める授業づくりを行っている
- ICT 活用により、他者の意見の参照や自分の考えの整理がしやすくなり、主体的に学びに関わる環境が整備されている

校務 DX と教員研修の取組

町内全教職員がつながる仕組み

- 町内すべての教職員がチャットツールでつながり、授業実践やお知らせ、研修情報

などを日常的に共有する体制を構築している。

- チャットとクラウドを活用することで、会議時間の短縮や、資料配布・決裁など校務の効率化を図り、人と人との関わりを密にしながら働き方改革にもつなげている。

体系的な教員研修

- 吉田町教育委員会が中心となり、校種を越えた合同研修や公開授業、夏季学習会などを通じて、教員が互いの実践から学ぶ仕組みを整えている。
- 端末操作にとどまらず、カリキュラム・マネジメントの観点から「学習のねらい」と「DX の手段」を結びつける研修内容とし、授業改善と校務 DX の両面を扱っている

吉田町 DX の特徴・先進性

- 町内 3 小学校・1 中学校すべてをリーディング DX スクールとして位置づけ、自治体ぐるみで統一的に取り組んでいる点が特徴とされている。
- 子ども、教職員、保護者の三者にとって魅力ある教育環境を目指す「TCP トリビンスプラン」の中核として、ICT 活用と DX を位置づけている。
- 校内の DX にとどまらず、町全体の教職員がチャットで常時つながり、「研修の交流が日常化」している

質疑応答

Q1	文科省のリーディング DX スクール事業に指定されているのは全国で約 200 校ある中で、吉田町の様に町内全小中学校が指定を受けているケースは珍しいと認識しています。何故、学校単体ではなく、町内全体で指定を受けた背景、ならびに町内全小中学校に指定を受けるメリットをお示してください
A1	文科省のリーディング DX スクール約 200 校の中で、吉田町のように町内全小中学校が指定を受ける例は少ないと認識しています。教育委員会主導で GIGA 環境と教員研修を町ぐるみで進め、全校で一貫した学びと校務 DX を図る点に大きな意義があると考え、町内全小中学校を対象としました。
Q2	移住を検討している子育て世代の人に町での生活をイメージしてもらうことを目的に、吉田町教育移住ツアーを開催し、ICT を活用した授業風景を見学していただいたとのことですが、ツアー参加者の反響をお示してください。
A2	● ICT を活用した先進的な授業の様子が見られ、子どもの学びに対する町の本気度を感じました。 ● 教職員が ICT 活用に意欲的で、授業や支援の工夫をしている点に安心しました。 ● 授業の進度が遅れがちな子どもへのフォローをさらに充実させてほしい。

所 感

吉田町のリーディング DX 事業は、町内全小中学校を対象に、クラウドと1人1台端末を軸とした授業改善と校務 DX を一体で進める取組であり、全国から視察が訪れる先進事例となっていました。授業面では、ラーニングガイド等で学習の見通しと振り返りを明確にし、端末による調べ学習や意見共有、またノート記述や話し合い活動を組み合わせることで、情報活用能力と基礎学力・思考力の両立を図っていました。校務面では、クラウドを活用した文書共有や校内連絡、研修のオンライン化などにより、教員の業務負担軽減と授業準備時間の確保につなげており、働き方改革と授業の質の向上を同時に追求する姿勢が印象的でした。

調査結果②

日 時	令和 8 年 7 月 15 日（水）、10：00～12：00	
調 査 市 等	神奈川県海老名市	
調 査 事 項	海老名市立図書館	
説 明 者	教育部学び支援課 永田 祥子氏 等	

海老名市の概要

海老名市は神奈川県ほぼ中央、県央地域に位置する市で、西は相模川を境に厚木市と接し、鉄道・道路交通の結節点として発展してきた。市域面積は約 26.6 平方キロメートルで、東西約 6 キロメートル、南北約 9 キロメートルと南北に細長い形状を有している。人口は約 14 万人規模で推移しており、東京圏への通勤圏として住宅都市機能を強めつつ、駅周辺の再開発や商業施設集積により広域から人を集める拠点性も高まっている。市内には鉄道が三社三路線乗り入れる海老名駅を中心に、商業、業務、住宅が混在する都市機能が集積する一方、相模川流域などには農地も残り、都市と農村が近接するバランスの取れた市域構成となっていることが特徴である。

海老名市立図書館

海老名市立図書館（中央図書館）は、駅近で「滞在型」を重視した公共図書館である。

施設としての大きな特徴

海老名駅から徒歩圏にある中央図書館は、館内に象徴的な吹き抜け空間を持ち、蔵書が立体的に展開される設計が特徴である。2015 年 10 月にリニューアルオープンし、朝 9 時～夜 9 時・原則年中無休の運用で、仕事帰りや休日にも使いやすい施設として位置づけられている。

図書館＋書店・カフェの一体運営

中央図書館は、指定管理者による運営のもと、館内に書店・カフェ機能を組み合わせた形が特徴である。読書や調べものに加え、「本を選ぶ・読む・過ごす」を同じ場所で完結しやすい点が、一般的な公共図書館と異なっている点である。

子育て・学習利用を支える設備とサービス

館内には授乳室が複数フロアに設けられ、おむつ交換台や調乳用温水器も整備されている。また、館内フリーWi-Fi、Web のマイページからの予約・貸出延長など、日常的に使い続けやすい運用面の工夫も特徴的である。

新たな図書館づくり

海老名市立中央図書館は、築年数による老朽化対応と機能刷新を目的に大規模改修された。

大規模改修に至った主な経緯（時系列）

- 旧・中央図書館は築約 30 年が経過しており、外観は活かしつつ内装を中心に大規模改修する方針が示された。
- 改修工事のため、2014 年 11 月末から閉館し、「改修」と「運営体制」の切替を同時に進めた。
- 改修後は、指定管理者による運営のもと、2015 年 10 月 1 日にリニューアルオープンした。

「改修」と「運営見直し」がセットだった点（素晴らしい点！）

今回の改修は、単なる修繕というより、図書館を「より使いやすい公共空間」に再設計する意図が強く、開館時間の拡充など運用面の刷新も同時に進めた。単に老朽部分を直すだけでなく、長時間開館と年中無休を可能にする人員配置や運営スキームを組み込んだことが「運営見直し」とセットになっている。

主な変更点

項目	改修前イメージ	改修後の姿
開館日	休館日ありの一般的運用	原則「年中無休」
開館時間	日中中心	9 時～21 時の 12 時間開館
空間構成	従来型の閲覧中心	円形吹き抜けを核にした滞在型空間
機能	図書・閲覧が中心	図書＋書店＋カフェ＋イベント

指定管理者制度と民間ノウハウの導入

海老名市は 2014 年度から、中央図書館と有馬図書館に指定管理者制度を導入し、カルチュア・コンビニエンス・クラブ（CCC）と図書館流通センター（TRC）の共同事業体に運営を委託し、次のような民間ノウハウを取り入れた。

- 書店・カフェを併設した「滞在型」の空間デザインと売場づくり
- ICT を活用した予約・返却、駅やコンビニでの返却など利便性向上策
- 民間イベントやプロモーションのノウハウを生かした文化プログラム
- 指定管理者としての人員配置や営業時間設計による長時間開館の実現

質疑応答

Q1	海老名市立中央図書館は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社（CCC）が指定管理者として運営する「TSUTAYA 図書館」であり、市の公立図書館でありながら、書店機能やカフェと一体となった商業的要素が強いことから「公共性と営利性のバランス」が難しいと考えます。どのような指針のもと、本図書館の運営を行っているのかをお示しください。
A1	海老名市立中央図書館は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社を指定管理者とする、書店機能やカフェを併設した「TSUTAYA 図書館」です。そのため商業的要素が強く、「公共性と営利性のバランス」が課題となるが、運営はあくまで市の図書館事業の基本方針と設置条例に基づき、市民の学習・調査研究・教養の向上、生涯学習の支援を目的としています。また、個人情報の図書館外利用を禁じるなどデータ保護のルールを明示し、指定管理者評価や選定委員会によるチェックを通じて、営利性が過度に優先されないようモニタリングする仕組みを整えています。
Q2	公共図書館として、高齢化や多様な障害特性に応じた環境整備、多言語対応、情報弱者への支援に取り組む必要があると考えますが、現時点での取組をお示しください
A2	海老名市立中央図書館では、高齢者や障がいのある方、情報機器に不慣れな利用者への配慮として、バリアフリーとユニバーサルデザインの観点から環境整備とサービス提供を行っています。館内には点字ブロックやエレベーター、多目的トイレなどを備え、移動面のバリアを低減しているほか、来館が困難な市内在住者を対象とした図書宅配サービスを実施しています。また、インターネットやパソコン利用に関するサポート、電話での予約受付など、情報機器の操作に不慣れな利用者への支援も行っています。一方で、多言語表示や障がい特性に応じたきめ細かな配慮、図書館に求められるユニバーサルデザインのより一層の充実は、今後の改善課題として認識しています。

所 感

海老名市立中央図書館は、カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社が指定管理者として運営する、書店機能やカフェを併設した「滞在型図書館」です。駅前という立地と長時間開館により多様な世代が集い、民間ノウハウを生かした空間づくりやイベント展開など、従来の公立図書館にはない集客力とにぎわい創出が大きな特徴と感じました。一方、商業的要素が強いがゆえに、選書や展示、イベントが販売促進に偏らないか、また静かな学習・調査環境との両立など、公共性と営利性のバランスに継続的な検証が必要と感じました。